

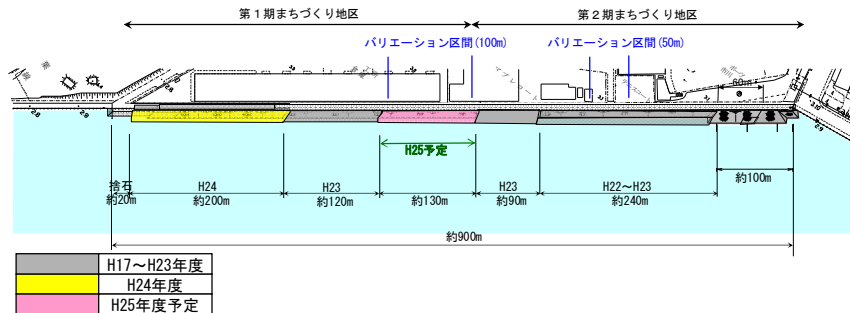
市川市塩浜護岸改修事業 平成25年度の事業計画

平成25年3月

平成25年度 事業計画

市川市塩浜護岸改修事業(塩浜2丁目)

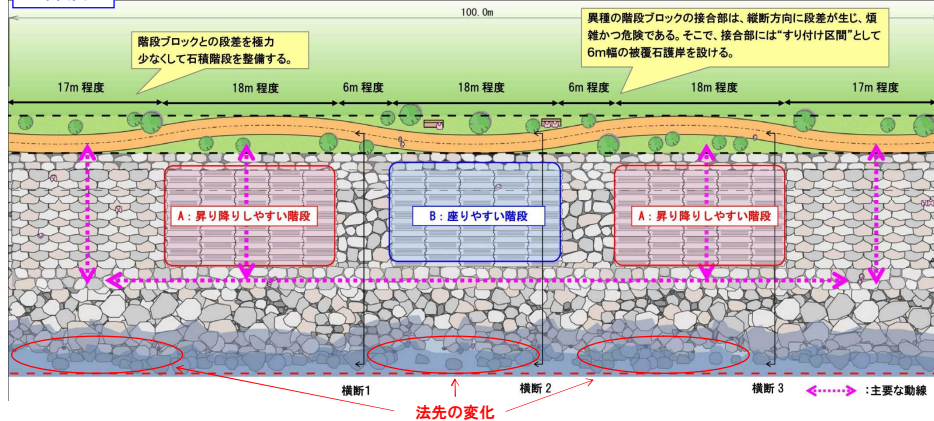
- ・塩浜2丁目護岸約1,100mのうち東側約900mについては、平成25年度の完成を目的に事業を進めている。
- ・H25年度は、バリエーション区間(約130m)の工事を予定
- ・H25年度末迄に西側との摺りつけ区間(約20m)を除き、完成予定



護岸バリエーション区間

バリエーション計画は、コンクリートブロックを最大限配置し、“安全に水辺に近づきやすい昇降機能”と“座って休息する機能”を重視する空間の創出に配慮。

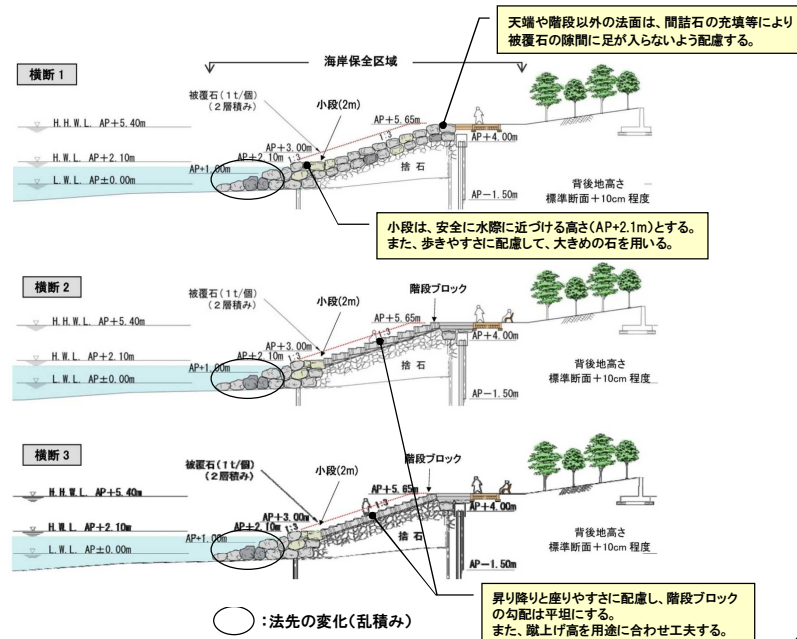
平面図



3

護岸バリエーション区間

横断図



4

2丁目護岸 H25年度のモニタリング計画

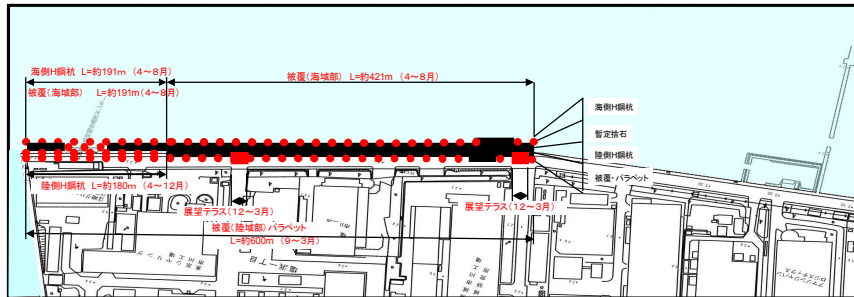
平成25年度のモニタリング調査計画

赤字：H24年度からの変更箇所

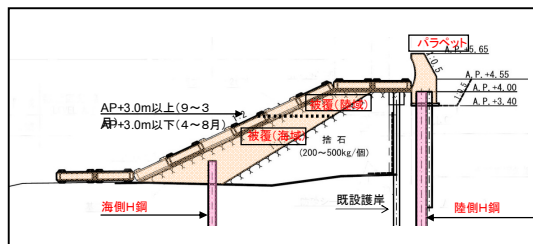
区分	項目	目的	方法	時期(間隔)	場所・数量等
検証項目	地形	・護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握 ・洗掘等による周辺地形の変化の把握等	地形測量	春季：4月 秋季：9月の年2回	・護岸改修範囲の岸沖方向100m×(48測線)= 測線延長4,800m ・測線No. 82(1工区)、L-2、対照測線L-3の岸沖方向500m×(3測線)= 測線延長1,500m
	底質	・粒径の変化の把握	採泥・粒度試験	春季：4月 秋季：9月の年2回	・測線No. 82(1工区)、No. 46(2工区)の岸沖方向100mを10m間隔で採泥(11検体)、L-2、対照測線L-3の岸沖方向100mを10m間隔で採泥(10検体)：合計42検体 ・測線No. 82、L-2、対照測線L-3の岸沖方向500mの3測線で、沖合150m、200m、300m、400m、500mの5地点で採泥：合計15検体
	生物	・潮間帯生物の定着状況 ○調査は公開とし、ベルトトランセクト法による観察は市民との協働で行うものとする。	ベルトトランセクト法による観察 採取分析	春季：4月 夏季：8月下旬～9月の年2回 冬季：1月 潮間帯の写真撮影のみ (ただし、青潮や出水などにより護岸前面の生物群集に大きな影響があった場合には、冬季調査を実施する。)	・測線No. 82、H19年度乱積み施工箇所、L-2、No. 46、L-3の5測線 ・石積護岸(斜面上)：方形枠(50cm四方)による連続目視観察 ・高潮帯から護岸のり先まで1m間隔 ・旧護岸法線より30～100mは10m間隔 ・H19年度乱積み施工箇所は潮間帯のみ観察 ・測線No. 82、H19年度乱積み施工箇所、L-2、No. 46、L-3の5箇所における採取分析 ・1箇所当たり高、中、低潮帯、のり先の4検体
	水鳥	水鳥の場の利用への影響について、必要に応じて専門家等からの情報提供を得る。			
検証材料	波浪・流況	2丁目護岸周辺の海底地形、底質に大きな変化が見られた場合は、東京湾内にある波浪観測点から外力を推定する。			
	青潮発生状況	青潮発生後に塩浜2丁目前面海域における青潮の広がり方などの状況について漁業者にヒアリングを行い把握する。また、参考情報として近傍の水質連続観測地点のリアルタイム観測値を入手して沖合いの水質状況を把握する。			

5

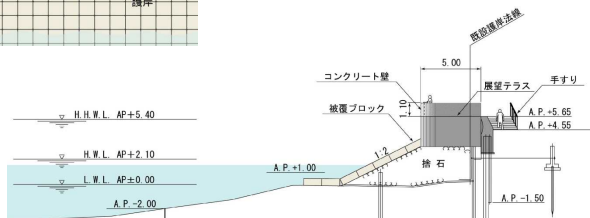
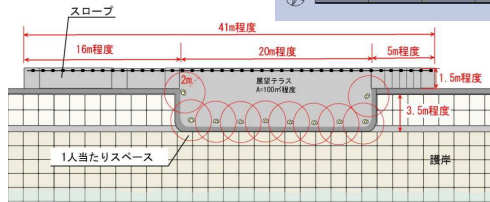
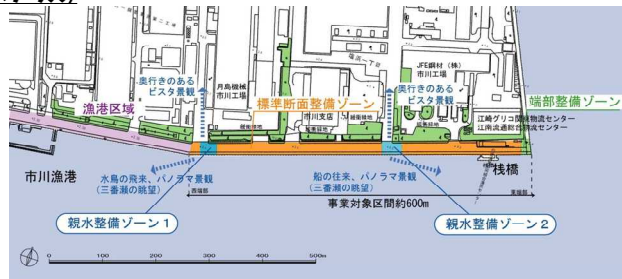
平成25年度 事業計画 市川市塩浜護岸改修事業(塩浜1丁目)



<標準断面図>



護岸バリエーション区間(親水テラス)



7

平成25年度モニタリング調査計画

項目	目的	方法	時期 (間隔)	数量等
海生生物	<ul style="list-style-type: none"> 護岸部への潮間帯生物の再定着状況の把握 護岸前面海域の底生生物の生息状況の把握 	ヘルトランセット法による観察	春季：5月 秋季：10月頃 の年2回	<ul style="list-style-type: none"> 測線SL-1 (No.10)、測線SL-2 (No.20)の2測線の基点から100mの範囲 護岸(斜面上)：方形枠(50cm×50cm)による連続目視観察 高潮帯から護岸のり先まで 1m間隔 旧護岸法線より20~100mは10m間隔
		採取分析		
地形	<ul style="list-style-type: none"> 護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握 洗掘等による周辺地形の変化の把握等 	深淺測量 (水深の浅い水際部は汀線測量)	春季：5月 秋季：10月頃 の年2回	<ul style="list-style-type: none"> 護岸改修範囲の岸沖方向100m×(31測線) = 測線延長3,100m 測線No.10、測線No.20の岸沖方向500m×(2測線) = 測線延長1,000m ：合計4,100m
底質	<ul style="list-style-type: none"> 護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握 底質(粒度組成)の変化の把握 	採泥・粒度試験	春季：5月 秋季：10月頃 の年2回	<ul style="list-style-type: none"> 測線No.10、測線No.20において、各測線4箇所で採泥(17m、50m、100m、500m地点) ：合計8検体

8